

グッドイヤー、成長計画・財務目標の概略を発表

- 2020年のグローバル全体営業利益目標は30億ドル
- 2020年までのフリーキャッシュ・フロー50億ドルを見据える
- 最大40億ドルの株主還元プログラムを計画
- 普通株、一株当たり配当43%増
- 2016年財務目標を再確認

ザ・グッドイヤー・タイヤ・アンド・ラバー・カンパニー（以下、グッドイヤー）は、2016年9月15日、ボストンにて投資家説明会を開催し、業界の動向、財務実績目標や資本配分計画などの概要を発表しました。

会長兼社長兼最高経営責任者（以下、会長）であるリチャード・クレーマーは次の通り述べています。「タイヤ業界は健全に成長しており、収益をともなう成長をうかがえる魅力的な機会のある業界です。グッドイヤーには、その業界の中にあって成長を担保できる戦略があります。進むタイヤの複雑化、タイヤの高インチ化、タイヤ購買プロセス全域で影響力を増している消費者など、これらの変化に対応して成長できる戦略があるのです」

また、クレーマー会長は「タイヤ業界をリードするグッドイヤーにはイノベーション力・技術力・業界をリードする製品開発力・世界に通じる強力なブランド力を有しており、これにより、高い競争力が得られ、戦略を実行し業績目標を達成できるものと確信しています」と述べています。

グッドイヤーの財務業績目標は以下の通りです：

- ・ 2020年のグローバル全体の営業利益30億ドル
- ・ 2017年から2020年までの累計フリーキャッシュ・フロー43億～49億ドル

グッドイヤーは資本配分計画も更新し、成長設備投資・組織再編・債務返済・最大40億ドルの株主還元プログラムなども最新のものにしました。株主還元プログラムの一環として、グッドイヤー取締役会は普通株の一株あたりの四半期配当を0.10ドルにすると発表しました。配当支払日は12月1日、配当基準日は11月1日となり、年間で0.40ドルの配当となります。将来的な配当額は取締役会の判断事項となります。

「資本配分計画にはグッドイヤーの覚悟が表れています。柔軟な財務対応で価値を創造し、戦略プランを実行。さらなる財務内容の堅実化をはかる一方、引き続き将来に向けた投資をするとともに、株主の皆さまへ大きなリターンを直接お届けして参ります」とクレーマー会長は述べています。

また、これまでに発表した2016年財務目標の実現を再確認しました。

グッドイヤーは世界屈指の大手タイヤ会社です。従業員数は約6万6000人で世界22か国、49拠点で製品を製造しています。米国オハイオ州アクロンとルクセンブルグのボルマーベルグの2ヶ所に技術開発センターを有し、技術・性能の両面でタイヤ業界の標準を形づける最先端の製品とサービスを開発しています。グッドイヤーと製品の詳細情報は www.goodyear.com/corporate をご覧ください。

《日本グッドイヤー株式会社》

日本グッドイヤー株式会社は1952年創立。国産および輸入品のグッドイヤーブランドのタイヤを、補修用および新車装着用タイヤ市場で販売しています。日本グッドイヤー関連会社の日本ジャイアントタイヤ株式会社は、土木建築車両用・重機用オフロードタイヤを兵庫県たつの市の工場で生産しています。又グッドイヤーは日本において航空機用タイヤのマーケティングと販売も行っています。日本グッドイヤー株式会社とその製品について、ホームページで詳しい情報をご覧頂けます。日本グッドイヤー株式会社ホームページ www.goodyear.co.jp/
